

【 番 氏 名 】

二〇二〇年度 高等部二年生

一学期 実力試験

六十分

* 解答用紙提出先

現 代 文 → 加藤先生

古 文 → 三保先生

* 提出先アドレス

《現代文》加藤先生 → harunakato@rikkyo.uk

《古文》三保先生 → hirokomihho@rikkyo.uk

一次の文章を読み、後の問いに答えよ。

いまや、社会関係は、目の前に存在し、人々を拘束するものというより、一人ひとりの〈私〉が自覚的につくっていかねばならないものです。人々がものごとを決めるにあたって、絶対的な価値基準やモデルとすべき人やものはなくなり、すべてを〈私〉が決めなければなりません。

現代では「個人」は、それを抑圧するものに対し、高らかに掲げる理念というより、もはやそれしかない、唯一の価値基準という様相が強くなっています。その分、一人ひとりの〈私〉とは何か、その「アイデンティティが問題とされるようになりました。」「平等」もまた、すべての人をただ等しく扱うのではなく、一人ひとりの〈私〉が特別な存在であること、「オンラインワン」であることを承認することにはほかなりません。いまや、人は自分が他人と同じように扱われるだけでは納得できません。自分が他人と同程度には特別な存在として扱われることを求めるのです。

現代において個人主義は²〈私〉の個人主義ですし、平等は³〈私〉の平等です。価値の唯一の源泉であり、あらゆる社会関係の唯一の起点である〈私〉抜きに、社会を論じることはできなくなっています。そのような〈私〉は、一人ひとりが強い自意識を持ち、自分の固有性にこだわります。しかしながら、そのような一人ひとりの自意識は、社会全体として見ると、どこことなく似通っており、誰一人特別な存在はいません。^Aこのようなパラドクスこそが、〈私〉時代を特徴づけるのです。

〈私〉が時代の焦点となることが、独特の難しさを生み出していることは間違いないりません。たとえば⁴デモクラシーです。デモクラシーとは、〈私〉ではなく、〈私たち〉の力によって生み出していくものです。一人の力ではどうにもならない問題があるとき、人々が集まって〈私たち〉を形成し、〈私たち〉の意志で〈私たち〉の問題を解決していくことこそ、デモクラシーにほかなりません。

もちろん、問題ごとに、その当事者となる〈私たち〉も違ってくるでしょう。ただ、いまの時代において、〈私たち〉を形成することは難しくなっています。安全保障、雇用、介護など、問題ごとに、誰が当事者で、誰の力を結集しなければ、問題を解決できないのでしょうか。一人ひとりが〈私〉の意識をもち、他人とは違った自分らしさを模索しているなか、そのような〈私〉が集まって、〈私たち〉をつくっていかねばならないのです。これが^Bそが〈私〉時代のデモクラシーという問題です。

（『〈私〉時代のデモクラシー』 宇野重規）

〈語注〉

*デモクラシー…民主主義。

*当事者…その事柄に直接関係している人。

問一 傍線部1を言い換えた五字の語を、第5段落から抜き出して記せ。

問二 傍線部2における「個人」の説明として最も適当なものを、次から選べ。

- ① 抑圧に抵抗するための理念である。
- ② 一人ひとりが自覚的につくるものである。
- ③ 唯一の価値基準となっている。
- ④ 他人と同じであることを意味する。

問三 傍線部3についての説明として最も適当なものを、次から選べ。

- ① 万人をただ同等なものとしてのみ扱う。
- ② 万人を等しく特別な存在として扱う。
- ③ 万人を優劣のないものとして扱う。
- ④ 万人を社会関係の起点として扱う。

問四 傍線部4についての説明として適当でないものを、次から選べ。

- ① 一人の力では解決できない問題を扱う。
- ② 問題ごとに、当事者が違ってくる。
- ③ 〈私たち〉の意志を必要としない。
- ④ 〈私たち〉の力が生み出すものである。

問五 傍線部Aとあるが、これはどのようなことか。三十五字以内で説明せよ。

問六 傍線部Bについての筆者の考えとして最も適当なものを、次から選べ。

- ① 他人とは違った自分を模索する〈私〉が、〈私たち〉の力を結集して問題を解決することは原理的に不可能である。
- ② 〈私〉がそれぞれ固有性を求めるなかで、問題ごとに〈私たち〉を形成し、問題を解決していくことは容易ではない。
- ③ 〈私〉というものが焦点となる現代において、〈私たち〉というあり方を考えることは、もはや時代遅れである。
- ④ 一人ひとりの〈私〉が自覚的に社会関係をつくらねばならないので、〈私〉はとりわけ強い自意識を持つ必要がある。

二次の文章を読み、後の問いに答えよ。

(工業高校の機械科に通う三郷心は、技術を競うコンテストに出場するため、校内選考に向けて練習に励んでいた。ある日、心は、祖母に悩みを相談する。)

「特別扱いされることが、嫌なんよ」男子との明確なちがいを気にする一方で、機械科に通う女子はたったひとりだという現実がある。¹希少価値の分だけ、自分へのあたりは柔らかいと感ずることもある。

気づいた時には、もう心は抜き差ししないところにきていた。旋盤に夢中になっていたのだ。硬い鋼の形を自在に変える工作機械の魅力に取りつかれていた。²あのあらがえないような鉄のパワーを受け止め、形に返す旋盤の魅力に。

ありがたいことに、心のがんばりが自然と周りに浸透していったのか、部活の中では特別な扱いを受けると感ずることもない。けれど、外部の人にはやはりまだ女子は特別だという思いがあるようだ。

「コンテストには校内選考で勝たんと出られんのやけど、ほかの学科の先生から女子が出たほうが学校のPRになるから、私が選ばれるやろうって、言われた」あたりまえだと言わんばかりの軽々しい口調だったので、³余計にこたえた。自分のがんばりをせせら笑われたような気分だった。

「それは男のゼラシーやね」

「ジェラシー？」

「その男は女に負けるのが悔しいけん、そんな理由をつけるんやろ。気にせんでいい」ちよつと意地悪な顔になって言う。「Ⅰ」力が抜けて、笑ってしまった。祖母も少し笑ったけれど、すぐに真顔になった。

「心ちゃん、ものをつくるのに男も女もないよ。昔じいちゃんが言ってくれたんよ。あたしがへたくそで悩んどった時ね。『女には旋盤できんのやろか』ってきいたら、『ものをつくるのに男も女もあるか』っち怒られたよ」

「そうよね」「Ⅱ」軽くなった気がする首を動かして、心は仏壇に目を移す。遺影の祖父は記憶よりも少し若い。福岡県の卓越技術者に選ばれた時に撮影された六十代半ばのものだ。⁴どこか照れくさそうではあるものの、確固たる自信が感じられるよい笑顔だと心はいつも思う。

(『鉄のしぶぎがはねる』 まはら三桃)

〈語注〉

* 旋盤…金属などを加工する工作機械。

問一 本文中の空欄Ⅰ・Ⅱにあてはまる語として最も適当なものを、それぞれ次から選べ。同じ語を繰り返し用いてはならない。

- ① いくぶん ② ふっと ③ まったく

問二 傍線部1とあるが、ここでいう「希少」とは具体的にはどういうことか。二十字以内で答えよ。

問三 傍線部2の後には、どんな言葉が省略されているか。十字以内の言葉を本文中から抜き出して記せ。

問四 傍線部3のように心が感じたのはなぜか。最も適当なものを次から選べ。

- ① 心が機械科に通うのは無理だと言われたから。
② 心を嫉妬する言葉を投げかけられたから。
③ 心を特別扱いする言葉を平然と言われたから。
④ 心の本心を見抜かれてしまったから。

問五 傍線部4での心の心情として最も適当なものを、次から選べ。

- ① 自分も祖父のように男性だったらよかったのにと、割り切れない思いを抱いている。
② 祖父が言ったという言葉に励まされたような気がして、亡き祖父に思いをさせている。
③ 祖父のことを思い出し、自分も祖父を超えるような技術者になろうと決意している。
④ 亡き祖父からしられたような気分になり、あらためて気を引き締めている。

問六 本文の登場人物についての説明として最も適当なものを、次から選べ。

- ① 心の身近にいた者たちは、外部の者たちに比べると、心に対して無理解だった。
② 心は、自分が周りの人間から嫉妬されているという祖母の言葉に、素直に納得できなかった。
③ 女性と男性の違いといったことについて、心が気にかけることはほとんどなかった。

- ④ 直接は書かれていないが、祖母もかつては旋盤を学んでいたのだろうと考えられる。

三 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

それ、人の友とあるものは、富めるを尊み、¹ねんごろなるを先とす。必ずしも情けあると、すなほなるとをば愛せず。ただ、²糸竹・花月を³友とせんにはしかじ。人の奴たるものは、⁴賞罰はなはだしく、恩顧厚きを先とす。⁵さらに、はぐくみあはれむと、安く静かなるとをば願はず。ただ、わが身を奴婢とするにはしかず。いかが奴婢とするとならば、もしなすべきことあれば、すなはちおのが身を使ふ。たゆからずしもあらねど、⁶人を従へ、人を顧みるよりやすし。もし歩くべきことあれば、みづから歩む。苦しといへども、馬・鞍・牛・車と、心を悩ますにはしかず。今、一身をわかちて、二つの用をなす。手の奴、足の乗り物、よくわが心になへり。心、身の苦しみを知れば、苦しむ時は休めつ、まめなれば使ふ。使ふとても、たびたび過ぎず。もの憂しとても、心を動かすことなし。いかにいはんや、つねに歩き、つねに働くは養性なるべし。なんぞいたづらに休みをらん。人を悩ます、罪業なり。⁷いかが他の力を借るべき。

(― 中略 ―)

すべて、かやうの楽しみ、富める人に対していふにはあらず。ただ、わが身ひとつにとりて、昔今とをなぞらふるばかりなり。

(『方丈記』)

(語句注)

奴 ― 召使い。あとの「奴婢」と同じ。

恩顧 ― 恩恵。

はぐくみあはれむ ― 世話をしてかわいがる。

すなはち ― そのような時は。接続詞。

たゆからず ― 面倒ではない。

まめ ― 体が元気なこと。

いかにいはんや ― 「いかに」は「いはんや」を強めたもの。

養性 ― 養生と同じ。

罪業 ― 仏に対する罪の行為。

なぞらふる ― 比較する。

問一 傍線部1・4の意味として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選びなさい。

1

ア 心から仲のよい人

イ 長年自分を引き立ててくれた人

ウ 物質的に親切な人

エ いたわりや同情心の厚い人

4

ア 規則がうるさいこと

イ 罰するとすぐやめること

ウ 信賞必罰が厳しいこと

エ 報償・手当が多いこと

問二 傍線部2は何を言うか、最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。
ア 音楽 イ 絵画 ウ 詩歌 エ 女性 オ 庭先の草花

問三 傍線部3・7の口語訳として最も適切なものをそれぞれ一つずつ選びなさい。

3

ア 友とするのがいちばんだろう。

イ 友としないにこしたことはないだろう。

ウ 友としたらどうだろうか

7

ア どのように人の力を借りたらよいだろう。

イ どうして人の力を借りようか。

ウ 人の力を借りたらどうだろう。

問四 傍線部5を受ける語を、文節の単位で抜き出さない。

問五 傍線部6とありますが、結局どうすることが良いと言っているのか、文中から十字以内で抜き出さない。

問六 この古文は何について述べたものか最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 勤労の尊さ

イ 気ままな閑居の生活の一環

ウ 富める者と貧しい者の違い

エ 主人と奴婢の違い

四 次の各設問に答えなさい。

Ⅰ 次の傍線部の活用 of 行・種類と活用形を答えなさい。

(1) 消えずといへども、夕べを待つことなし。

(2) 悔ゆれども取り返さるる齢ならねば、

(3) 家々より松どもともして走り寄りて見れば、

(4) 道を学する人、夕べには朝あらんことを思ひ、

Ⅱ 次の() 内の形容詞を適当な形に活用させなさい。

(1) この子を見れば、(苦し) こともやみぬ。

(2) 「いと(悲し)ける。」とて、泣くを見るに、

(3) とりどりにいと(めでたし)ど、

Ⅲ 次の傍線部の助動詞の意味を答えなさい。

(1) かかる目見むとは思はざりけむ。

(2) 海のまた恐ろしければ、頭もみな白けぬ。

(3) その沢にかきつばたいとおもしろく咲きたり。

(4) 〈石清水八幡宮ハ〉かばかりと心得て帰りにけり。

IV 次の傍線部の助動詞の意味と活用形を答えなさい。

- (1) 冬枯れの景色こそ、秋にはをさをさ劣るまじけれ。
(2) などや苦しき目を見るらむ。
(3) 恐れの中に恐るべかりけるは、ただ地震なりけり。
(4) 「〈最初ノ仏ハ〉空よりや降りけむ、土よりや湧きけむ」と言ひて、笑ふ。
(5) 世の中に長恨歌といふ文を物語に書いてある所あんなりと聞くに、いみじうゆかしけれど、
(6) 必ず果たしとげむと思はむことは、機嫌を言ふべからず。

- 五 次の傍線部の古文単語の意味を答えなさい。なお、本文の意味に即して答えること。
① 「はや歸りて、おほやけにこの由を奏せよ」と仰せられければ、
② このちこのかたちけうらなること世になく、
③ ふりはへていぎふる里の花見むと来しをにほひぞ移ろひにける
④ 小式部、これより、歌よみの世におぼえ出できにけり。
⑤ 冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず。
⑥ 昔、女はらから二人ありけり。一人はいやしき男のまづしき、一人はあてなる男もたりけり。
⑦ なかなかいみじくなまめかしくて、ながめがちに音をのみ泣きたまふ。
⑧ 「ことなるかほかたちなき人は、ものまめやかに習ひたるぞよき」とて、
⑨ 長月の有明の月にさそはれて、蔵人少将、指貫つきづきしく引きあげて、ただ一人、小舎人童ばかり具して、
⑩ うれしきもの、まだ見ぬ物語の一を見て、いみじうゆかしとのみ思ふが、残り見出でたる。

現代文

氏名

(1)

—				
問五				問一
問六				問二
				問三
				問四

[illegible]

